

平成27年度第2回中国四国ブロックエイズ治療拠点病院等連絡協議会

2016.1.22 広島国際会議場

高齢化を迎えるエイズ患者への対応
徳島県におけるHIV感染症の現状
肝炎合併症例の検討

徳島大学病院 輸血・細胞治療部 三木 浩和

徳島県内のエイズ診療

三好市
徳島県立三好病院
拠点病院



鳴門市
徳島県鳴門病院
拠点病院

徳島市
徳島大学病院
徳島県立中央病院
中核拠点病院

海陽町
徳島県立海部病院
拠点病院



阿南市
JA厚生連阿南共栄病院
拠点病院



日亜化学

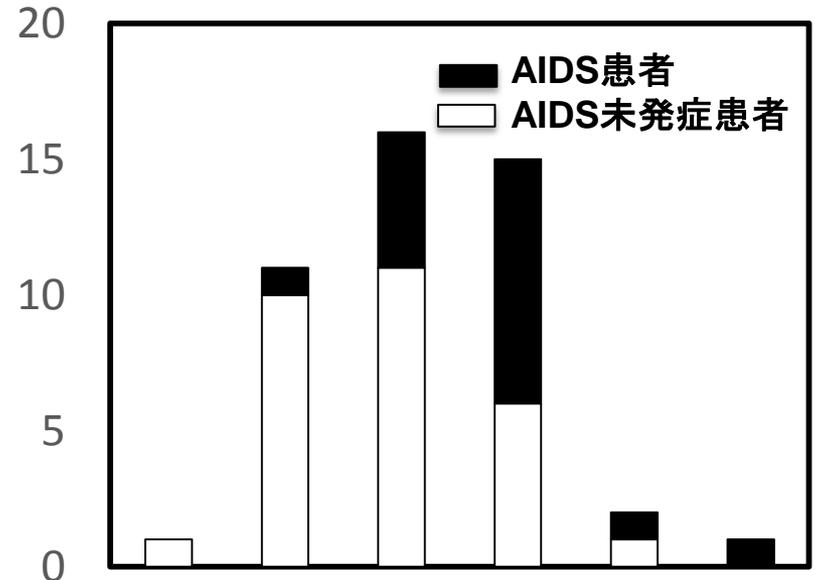
LED



徳島県における現状

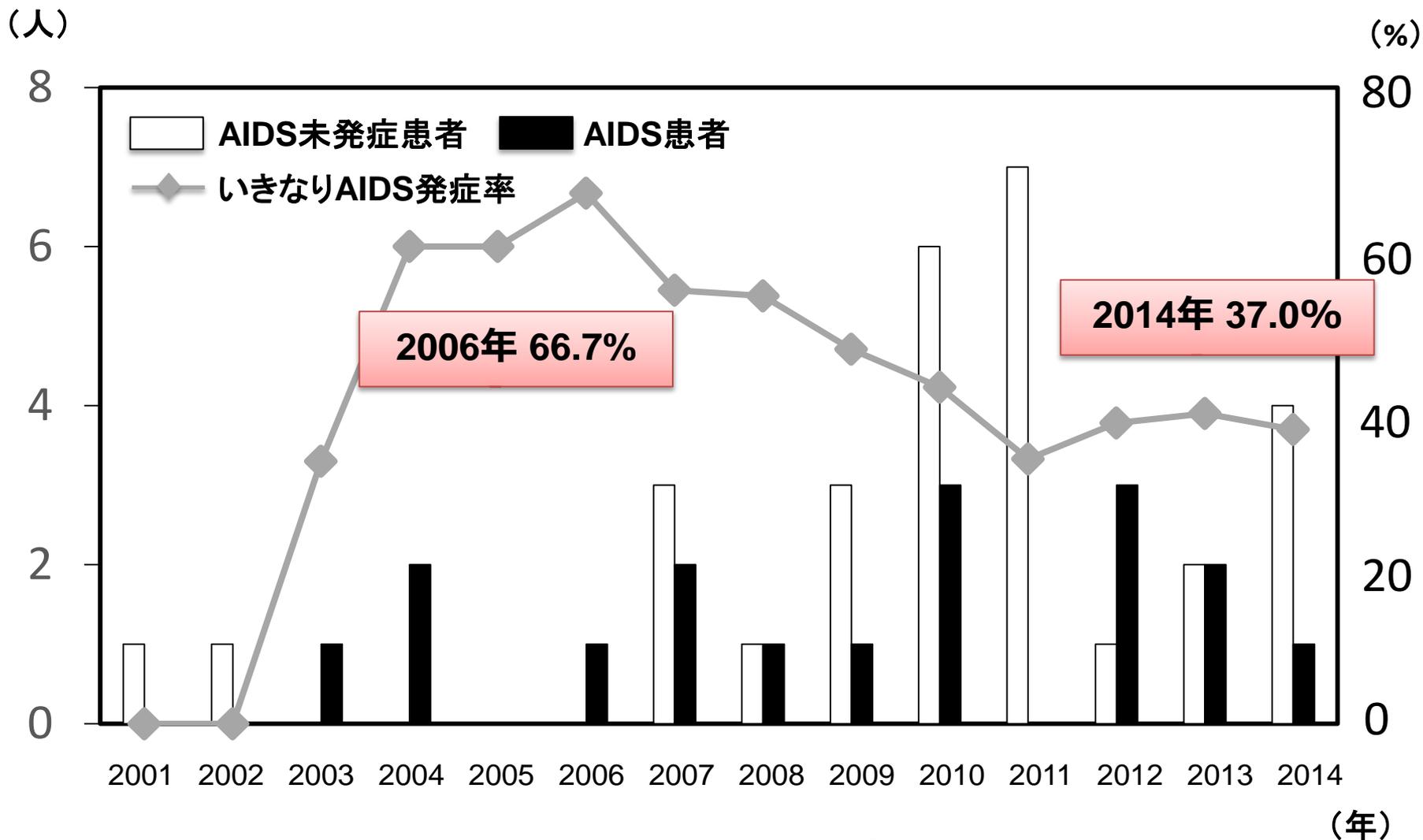
- 2001年から2014年12月までにエイズ中核拠点病院(徳島大学病院, 徳島県立中央病院)を受診
 - AIDS未発症(HIV感染者):29例
 - AIDS患者:17例(血液製剤感染は除く)
- 男性: 42例, 女性: 4例
- 受診時年齢(中央値)
 - AIDS未発症:35歳
 - AIDS患者:40歳

(人数) HIV感染者の年齢別受診者数



10歳代 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代

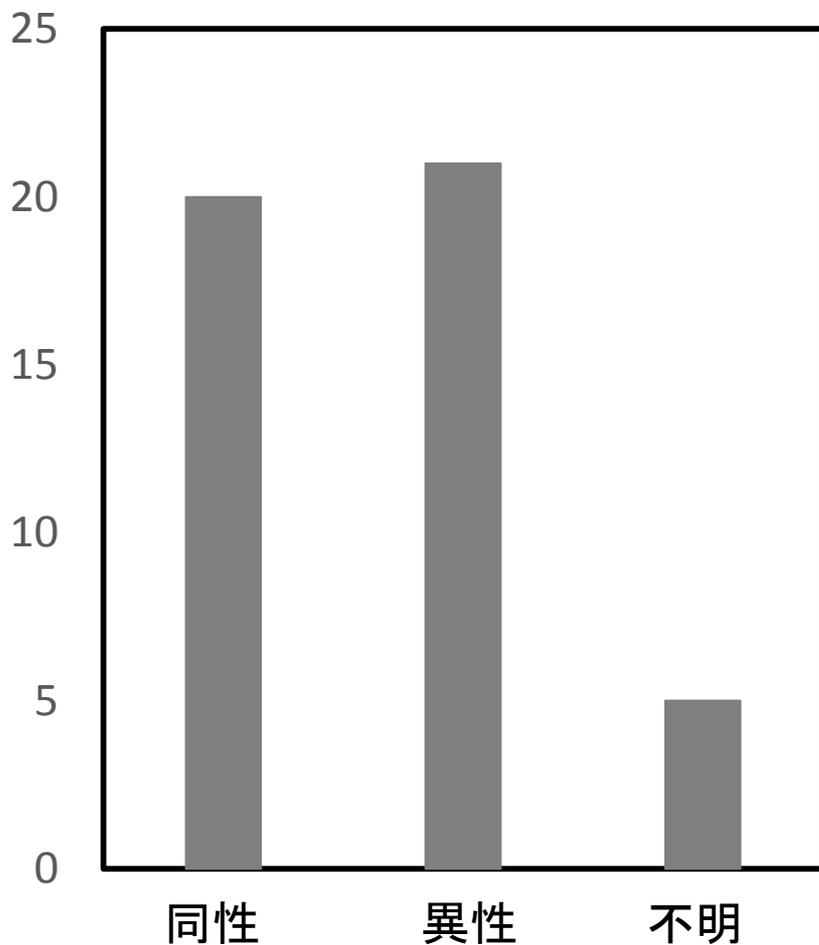
HIV感染者・AIDS患者数の年次別推移



$$\text{いきなりAIDS発症率} = \frac{\text{AIDS患者}}{\text{HIV感染者}} \times 100$$

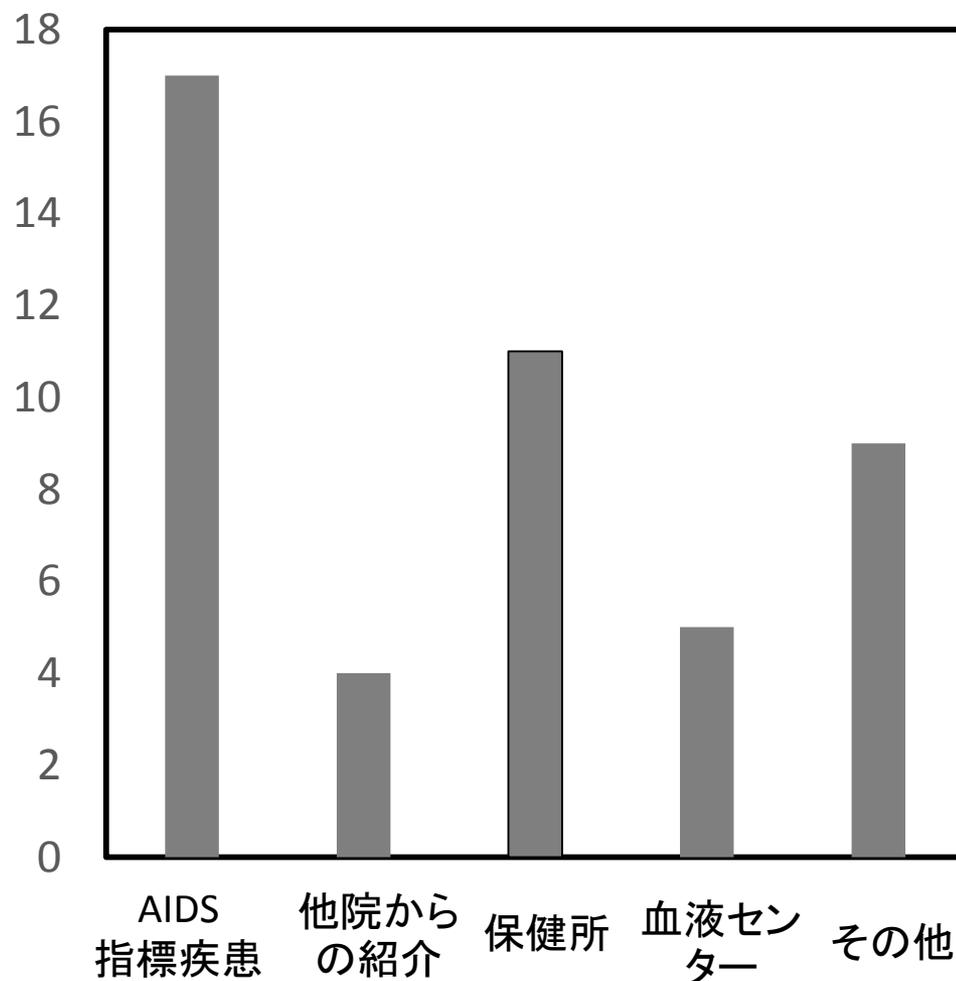
感染経路

(人)



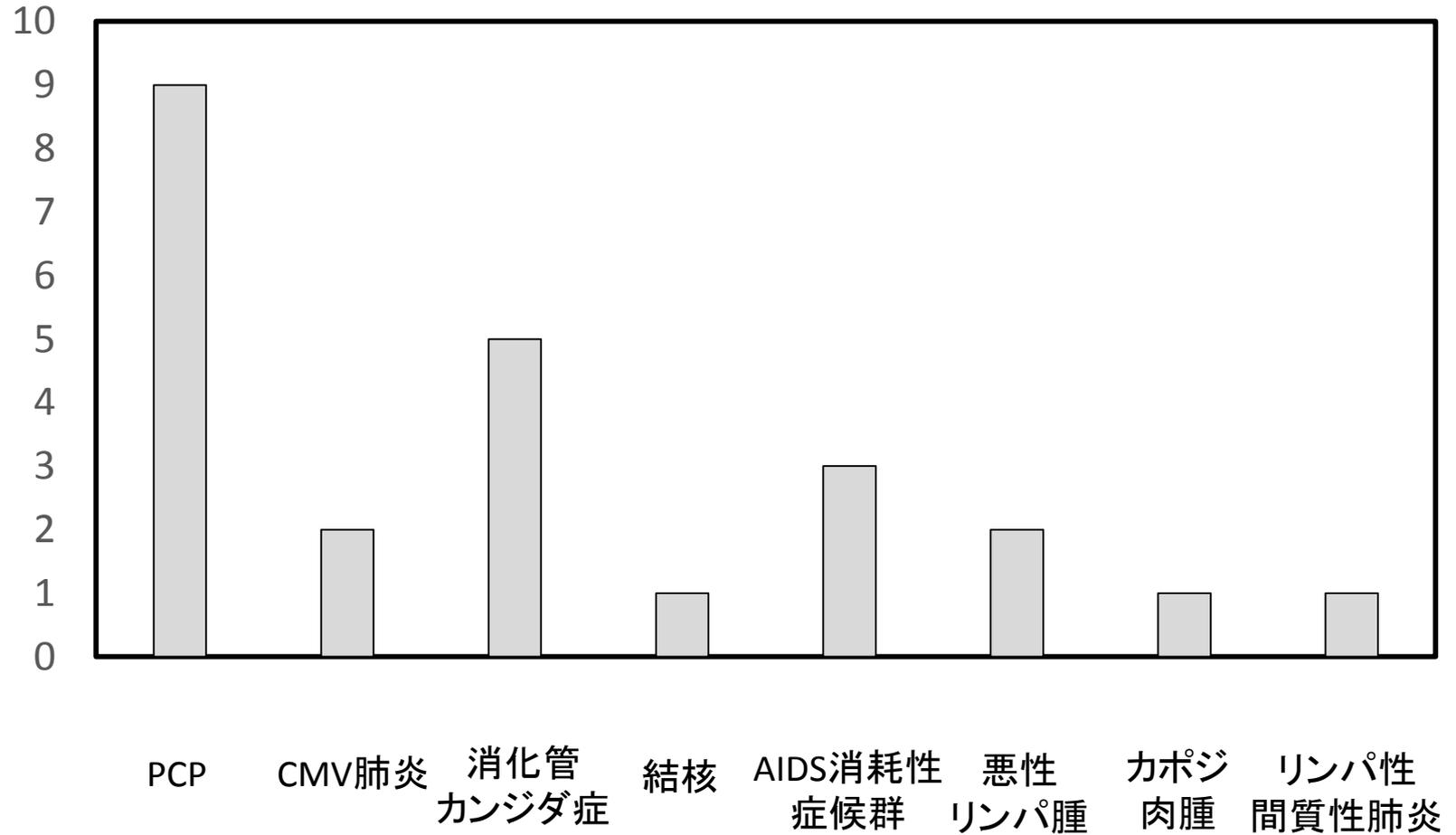
発見契機

(人)



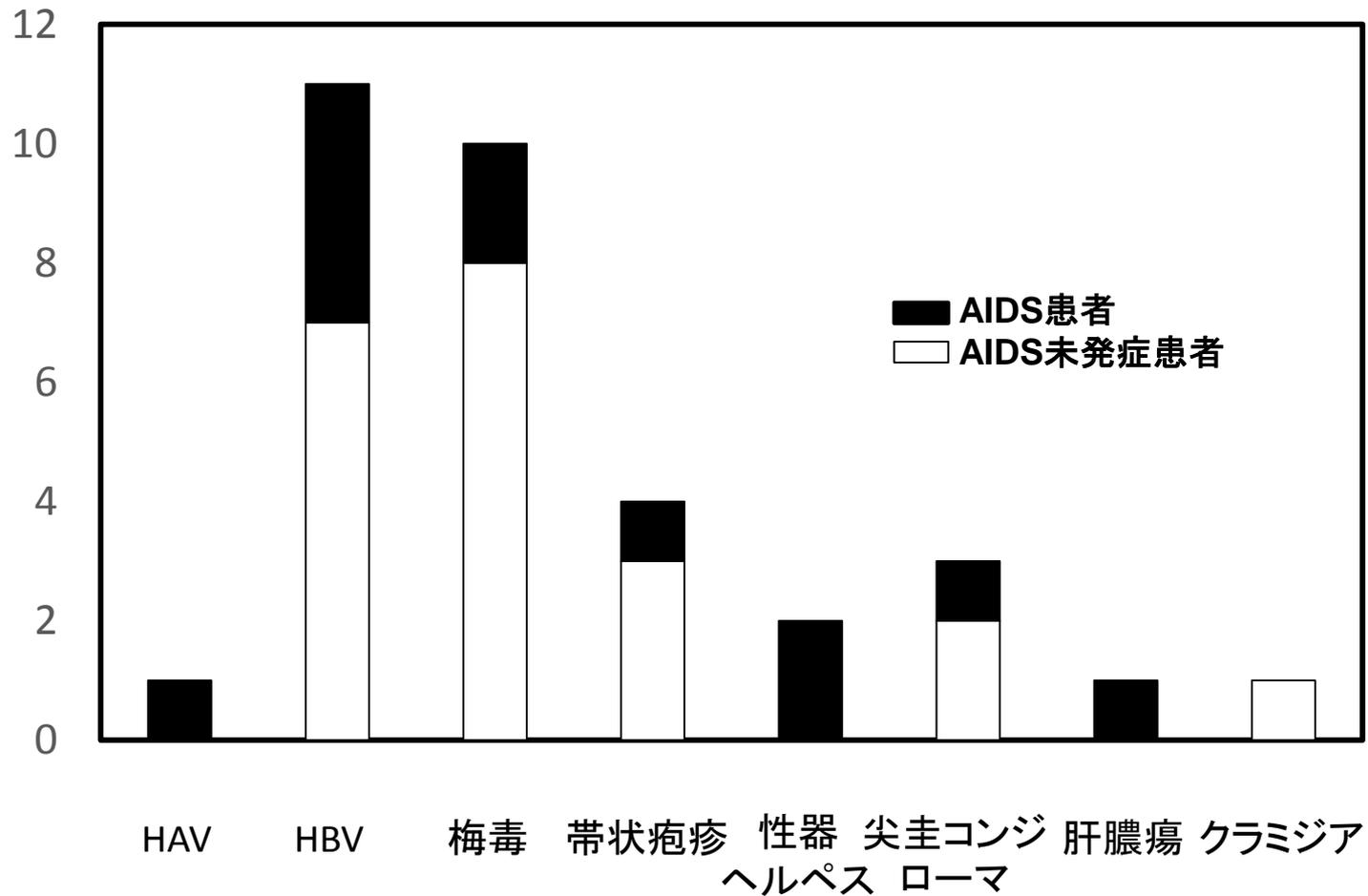
AIDS 指標疾患

(人)



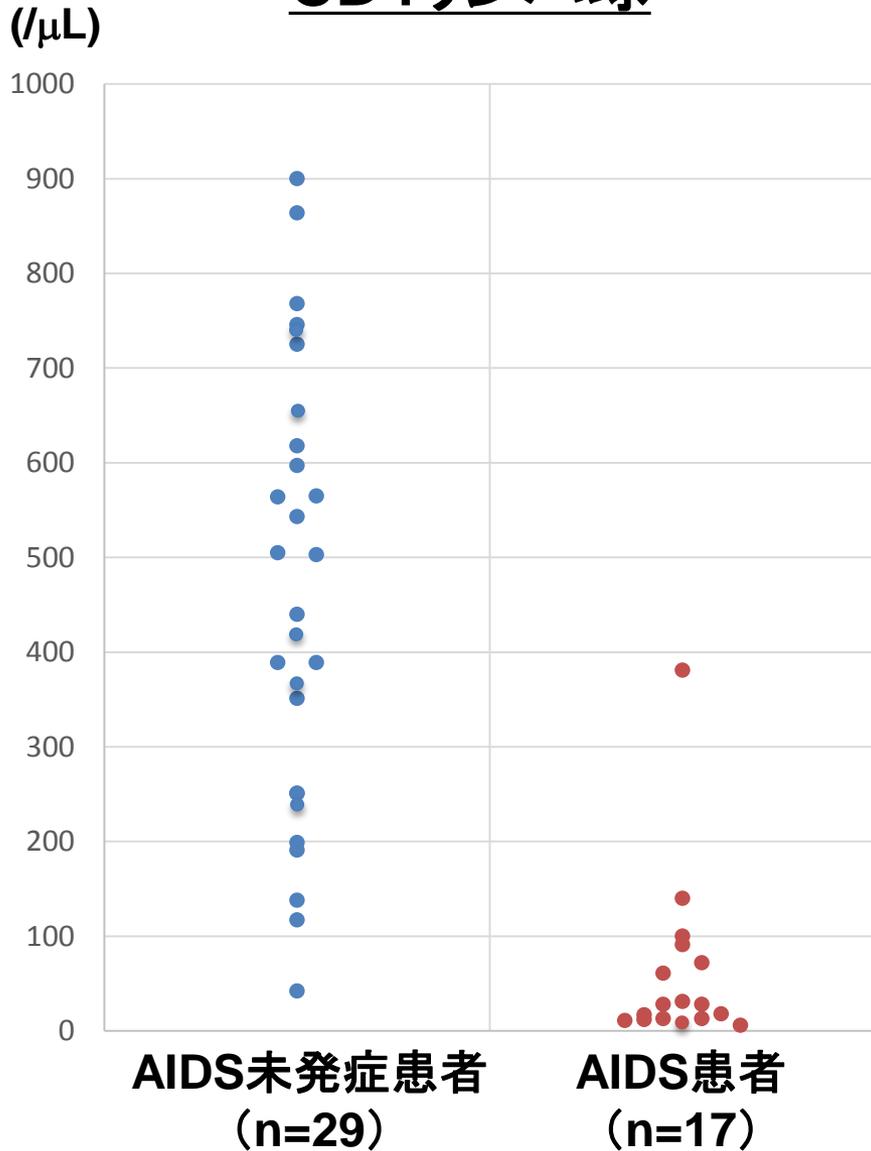
その他の合併症

(人)

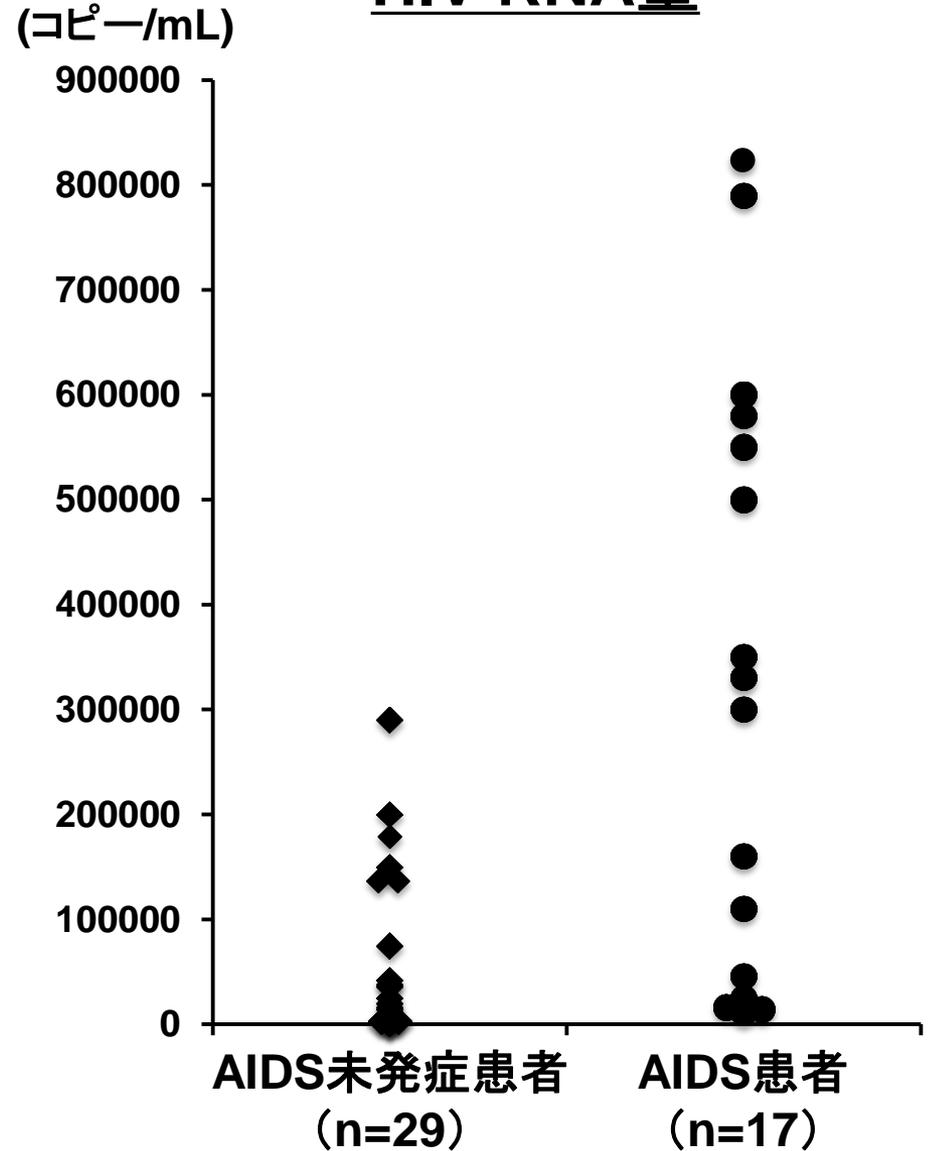


初診時検査成績

CD4リンパ球



HIV-RNA量



前半のまとめ

- 2014年度の新規発症は、AIDS未発症患者が多かったが、いきなりAIDS発症率37%と依然高く、早期診断が重要である。
- AIDS指標疾患としては、PCP、消化管カンジダ症が多く、またその他の合併症として、HBV、梅毒、帯状疱疹などの発症率が高い。
- HIV診療に関しては、消化器内科、呼吸器内科、皮膚科、歯科など他診療科との連携を密に保ち診療にあたる必要がある。

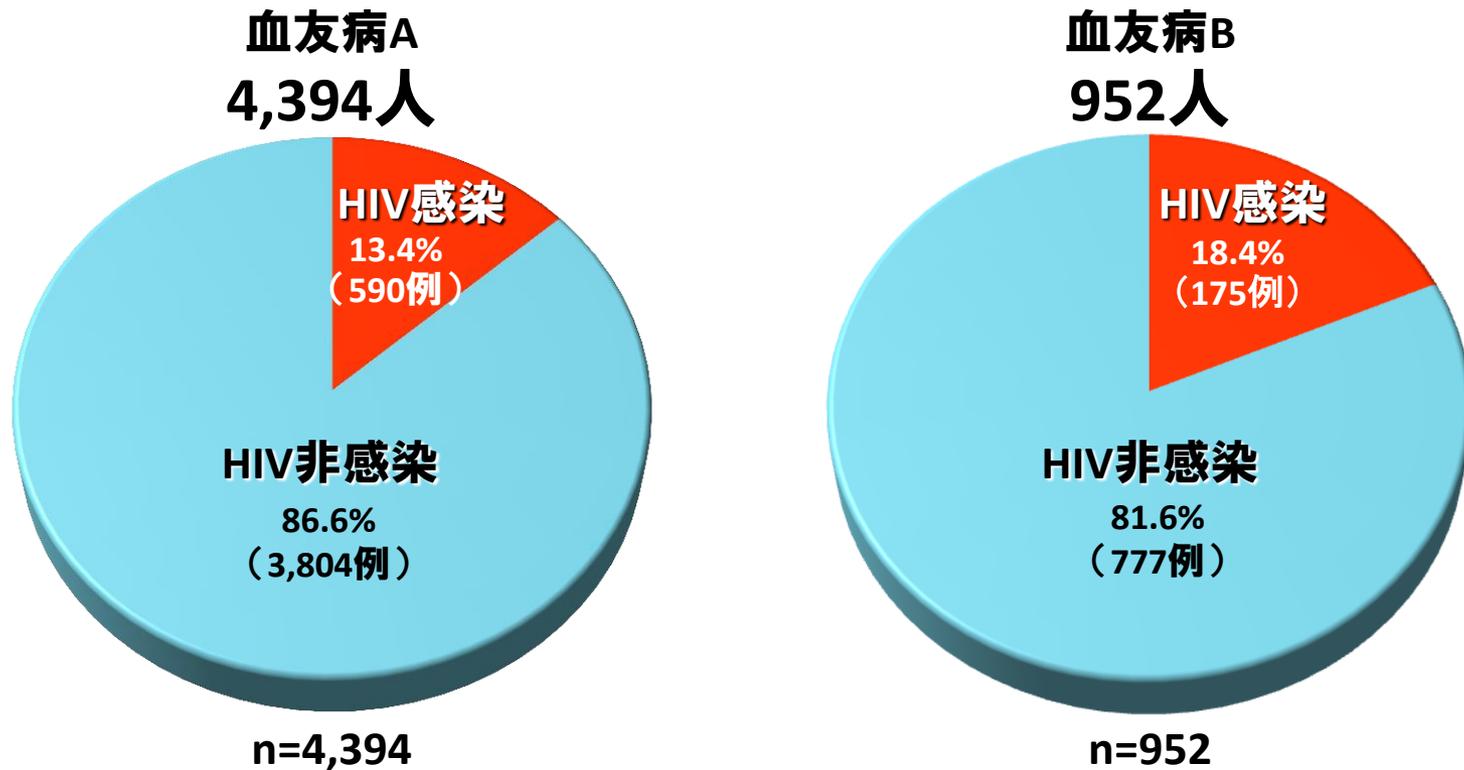
HIVと肝炎合併例(HIV/HBV)

- HBVの感染経路としては、近年、血液、性交渉などの水平感染が多く、HIV/HBV共感染者は、HIV感染者の約10%程度存在する。
- HIV感染者がHBVに共感染した場合、**HBV感染症の病期進展が速やか**となり、肝硬変・肝癌への進展が早くなる。
- HIVとHBVに対する抗ウイルス療法薬には、**両者に対して抗ウイルス効果を示す薬剤**がある。そのため、不用意にそれぞれの疾患に対する単一薬剤による治療を開始するとHIVおよびHBVの耐性を誘発する可能性がある。
- HIV感染症が判明し、抗HIV薬を開始する際には、HBs抗原、HBs抗体、HBc抗体などの検査、B型肝炎の既往を確認する必要がある。

HIVと肝炎合併例(HIV/HCV)

- HCVは、血液感染は多いものの性交渉での感染は少数であり、HIV/HCV重複感染症例の多くは、**血液製剤**を使用したものが多い。
- HIV/HCV共感染における抗HCV治療の原則は、HCV単独感染症と同じである。
- IFN+リバビリン併用療法では、一部の抗HIV薬との併用を避けるべきである。
AZT(レトロビル) 貧血のリスク↑
EFV(ストックリン) 精神症状増悪

血友病とHIV感染症



● 血友病患者の5～7人に1人がHIV感染者